

赤目中学校区教育目標 一人ひとりが生き生きと輝く児童・生徒の育成

めざす児童像・生徒像 なかまと繋がりがあって、学ぶ楽しさや自己有用感を育むことができる児童・生徒

1 学校教育目標

お互いの人権を認め合い、主体的に考え行動する 心豊かな子の育成

2 めざす学校像、幼児・児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 誰もが安心してすごせる学校</li> <li>◆ 子どもたちが学校に行くことを楽しみにする学校</li> <li>◆ 教職員が働く喜びを実感できる学校</li> <li>◆ 保護者・地域と共にある学校</li> </ul>
○児童像	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活・学習習慣を身につけ、意欲をもって自ら学び、確かな学力を身に付ける子</li> <li>(2) 差別を見抜き、差別をなくしていくために、自他ともに尊重できる子</li> <li>(3) 命を大切にし、健康で生き生きと活動する子</li> </ul>
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童理解を基盤とし、子どもに対する愛情や責任感をもつ教職員</li> <li>(2) 常に学び続ける向上心と、改善に努める教職員</li> <li>(3) 教育の専門家としての確かな力量と、豊かな人間性をもつ教職員</li> <li>(4) 互いに支えあい、認め合い、組織的に取り組む教職員</li> <li>(5) 保護者や地域住民の期待に応え、信頼される教職員</li> </ul>
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校と連携して子どもを育てる保護者(共育)</li> <li>(2) 子どもたちを温かく見守り、学校と連携することで、教育効果を高める地域(郷育)</li> </ul>

3 学校の現状

本年度の改善方策

	児童	教職員	保護者・地域	
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく素直で、友だちと協力して活動することができる。</li> <li>・学年の枠を超えて、誰とでも仲良く接することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教職員で、子どもたちの豊かな学びと育ちに向けて取り組もうとする。</li> <li>・安心して学習に取り組める環境づくりに向けて、改善を図ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動を支援してくれる保護者・地域、ボランティアの活躍がある。</li> <li>・地域で子どもたちを育てる意識の共有が広がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちに基本的な生活習慣や学習規律を身に付けさせ、確かな学びを実現するとともに、自他のよさを認め合い、豊かな心を育む教育を推進する。</li> <li>○ 学校教育目標の具現化にむけ、すべての教職員が一致協力して、組織的・計画的な学校経営、学年・学級経営を進める。</li> <li>○ 子どもたちにとって魅力ある地域づくりにむけて、保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間やルールを守ることなど、基本的な生活習慣や学習規律が十分に身につけていない。</li> <li>・自尊感情が低かったり、様々な不安を抱えたりしている子どもたちが少なくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる力」の育成を見据えた授業力の向上を目指す必要がある。</li> <li>・ライフワークバランスを意識した働き方を実践する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士のつながりのさらなる拡大や深まりをすすめる必要がある。</li> <li>・家庭でのよりよい生活習慣の定着が図れるよう働きかけが必要である。</li> </ul>	

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		2	3	4	5	6
1	子どもたちに基本的な生活習慣や学習規律を身に付けさせるとともに、自他のよさを認め合い、「学ぶ喜び・わかる楽しさ」を体感させる授業、魅力ある教育活動を展開する。	○	○	◎		
2	すべての教職員が児童理解を基盤として子どもたちに接し、さらに組織としての力を向上させる取組を充実させる。	○	○	○		
3	子どもたちが「地域を愛し、今後も住みつづけたい」と思えるように、学校・保護者・地域間の相互理解や信頼関係を深める学校づくりを進める。	○	○	○		

## 5 令和4年度の重点目標

資料③

<b>重点的な取組事項－1</b>	子どもたちに基本的な生活習慣や学習規律を身に付けさせるとともに、自他のよさを認め合い、「学ぶ喜び・わかる楽しさ」を体感させる授業、魅力ある教育活動を展開する。
-------------------	---

<b>A 今年度の成果目標</b>	
①	学校生活が楽しいと感じている児童の割合…90%(児ア) 【R 385% R 289%】
②	授業がわかりやすいと感じている児童の割合…94%(児ア) 【R 393% R 293%】
③	自分によいところがあると感じている児童の割合…84%(児ア) 【R 383% R 284%】
④	自分から進んであいさつしていると感じている児童の割合…87%(児ア) 【R 386%】
<b>B 目標実現に向けた取組 具体的な方策</b>	
①	「学びと生活の10か条」を推進するなど、基本的な生活習慣や学習規律を身に付けさせる取組を進めるとともに、子どもたちどうしのつながりが深まる取組を充実させる。
②	学力調査等を活用し、本校の強み弱みを分析し、強みの更なる向上を図るとともに、弱みの克服に向けた具体的な授業改善等を、すべての教職員で取り組む。
③	自分の良さを知り、友だちの良さを感じられる取組を進めるとともに、子どもたちの人権意識を向上させ、一人ひとりが安心して学べる環境づくりを進める。
④	あいさつはコミュニケーションの基本としてとらえ、児童間や先生や地域の人などに自分から進んで挨拶できる児童の育成を図る。

<b>重点的な取組事項－2</b>	すべての教職員が児童理解を基盤にした教育活動を推進し、さらに組織としての力を向上させる取組を充実させる。
-------------------	--

<b>A 今年度の成果目標</b>	
①	学校目標達成に向けて、組織的な取組ができたと感じている教職員の割合…85%(教ア) 【R 385% R 289%】
②	児童理解を基盤とした生徒指導や学習指導ができたと感じている教職員の割合…85%(教ア) 【新設】
③	自己目標の実現に向けて、具体的な取組を推進していると感じている教職員の割合…85%(教ア) 【新設】
<b>B 目標実現に向けた取組 具体的な方策</b>	
①	日頃の取組の情報交換を積極的に進め、特に課題を抱える子どもや特別な支援が必要な子どもについて、「ONEチーム」としてすべての教職員で共通した指導・支援を行う。
②	児童に寄り添い、個々の特徴や傾向などを把握して、「この子のよさは」「この子を伸ばすには」と問い続け、一人ひとりのよさを伸ばし続ける教育活動を展開する。
③	自己目標を常に意識した実践を心掛け、改善を図りながら、目標達成に向けた取組を進めていく。

<b>重点的な取組事項－3</b>	子どもたちが「地域を愛し、今後も住みつづけたい」と思えるように、学校・保護者・地域間の相互理解や信頼関係を深める学校づくりを進める。
-------------------	--

<b>A 今年度の成果目標</b>	
①	自分の住んでいる地域が好きだと感じている児童の割合…85%(児ア) 【新設】
②	ゲストティーチャー等を生かした教育活動を積極的に進めていると " …97%(保ア) 【R 397% R 297%】
③	通信や授業参観などを通じて、教育活動や子どもの様子をよく伝えていくと " …98%(保ア) 【R 398% R 299%】
<b>B 目標実現に向けた取組 具体的な方策</b>	
①	日頃から地域との連携を密にして、地域の「もの・ひと・こと」に親しみを感じられるような取組を積極的に進める。
②	コミュニティ・スクールの趣旨に基づき、授業をはじめとする教育活動に、学校支援ボランティアをはじめ、家庭・地域の方々に積極的に参画いただく機会を進める。
③	保護者に学校での子どもたちの様子を見ていただく機会を充実させ、学校だよりやホームページ等で子どもたちの活動を積極的に発信する。

**6 学校における働き方改革の推進に向けた取組**

**上限時間に基づく目標**

<b>成果指標①</b>	1人当たりの月平均時間外労働	20時間以下 <b>【R3 13.2時間】</b> <small>(30時間以下の範囲)</small>
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)

**具体的な方策**

- ・これまで実施してきたグループ研究部会のある水曜日だけでなく、職員会議・研修会・グループ研究部会のない水曜日や、委員会・クラブのない金曜日を、「ノー残業デー」として位置づけ、原則17時30分までに退校できるようにする。
- ・出張後、本校に帰校することが勤務時間を超えるものについては、原則、直帰することを働きかける。
- ・積極的にSSSに業務を依頼していく。

**休暇取得促進の目標**

<b>成果指標②</b>	1人当たりの年間休暇取得日数	12日以上 <b>【R3 11日】</b> <small>(各学校で設定)</small>
--------------	----------------	--

**具体的な方策**

- ・各自の年休取得日数の目標を、「昨年度の年休取得日数+1日」に設定する。
- ・効果的・効率的な業務遂行を心がけるために、これまでの前例にとらわれないような行事内容の精選を行う。

**学校独自の取組**

<b>活動指標</b>	設定した日の定時に退校できた職員の割合 <small>(教ア)</small>	80%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	70%以上

**具体的な方策**

- ・効率よく働くための工夫として、出張や年休等、授業を自習にした際のノート指導やテスト・プリントの採点補助を、当該職員以外の教職員で行う。
- ・教職員の多忙化、負担感の軽減のための具体的な取組について、定期的に話し合いを設定する。

